

地域の経済

苫小牧

2010年(平成22年)3月10日(水曜日)

北海道新聞

15 経済 16版

苫小牧東部地域で、太陽光発電装置製造など環境に配慮した新エネルギー関連産業の集積を目指す動きが目立つ。新たな成長分野として大型投資が見込まれ、関係者はセミナー開催や企業回りで立地の良さをアピール。誘致の起爆剤として、苫小牧沖が有力候補地となっている二酸化炭素(CO₂)の地中封じ込め技術(CCS)の実証実験の実現を視野

苫東地域への企業誘致

に取り組みを強めている。株式会社苫東(苫小牧)などは昨年10月に札幌、2月には東京で新エネルギー関連産業の誘致に向けたセミナーを開催。電気、ガス、建設など予想を上回る計約2300人が集まった。



昨年10月に札幌で開かれた新エネセミナー。太陽光発電分野の成長への期待などが語られた

新エネ関連に照準

CO₂封じ込め 実験を視野に

同社の吉野三郎社長は「環境分野への注目の

高さを感じた」と話す。苫東地域ではここ数年、自動車関連産業の

進出が続いていたが、

発電所や天然ガス田からエネルギーの安定供給

を受けられる一などの点を挙げる。昨年4月、苫東地域で初の新エネ関連施設として稼働したバイオエタノール製造、オエノンホールディングス苫小牧工場

の松本信一工場長も「将来、天然ガスを使いたい。さらに苫小牧、室蘭の製油所が製品の出荷先になりうる」と立地の狙いを語る。

2008年のリーマン・ショック以降、動きが停滞。苫東などは新たな誘致企業として、温室効果ガス大幅削減目標を示した鳩山由紀夫首相のおひざ元らしく環境分野に狙いを定めた。これまでに首都圏を中心に新エネ関係延べ40社を訪問し、進出を働きかけた。

同社は、苫東地域の利点として①約1万畝という広大な土地に空港や港が近く物流機能が整っている②近くの

ただ、新エネ関連産業は全国的に誘致合戦が激化。誘致戦略を固め切れていない苫東地域は最後の決め手に欠く。そんな中、期待を集めているのがCCSだ。苫小牧沖で実証実験が行われれば、環境に配慮した取り組みが進む地域として企業誘致の弾みになる。さらに、ウレタンフォーム製造のための発泡剤生産などCO₂を利用する産業の進出にもつながる可能性がある。

1月には、苫東地域に山林の保育やフットパスルートの整備を目指すNPO法人「苫東環境コモンズ」が発足。企業誘致への間接的な新たな追い風となりそうだ。事務局の草刈健さんは「自然と共生する工業基地として付加価値を高め、環境に配慮した企業の進出に期待する。」

<メモ>道内では新エネ関連の動きとして、稚内の実証実験用の大規模太陽光発電施設(メガソーラー)が

造られているほか、都市ガスなどを使って発電する寒冷地仕様の家庭用燃料電池の販売計画も進んでいる。

山田 崇史